白梅学園短期大学紀要第14号（1978）63—78

大学生の学園生活満足度の分析的研究

林　　潔

1. 序

1889年(明治19年)，帝国大学令が公布されたこの年，わが国の大学の学部学生数は437名にすぎなかった（その他，高等学校に413，専門学校に9,662，高等師範学校に173名，計10,284名の在学生がある)。そして1976年には，学部学生の数は1,702,235名にまで拡大する（このほか，短期大学に360,026，高等専門学校に47,055，計407,081名が在学している)。高等教育在学者数は，この間に197倍と増加する。

この教育年限の長期化は，心理的 moratrium の段階としても把握されている。そして，高等教育における教育の効果は，manpower 開発の視点からも留意されるものである。

現代青年あるいは学生の意識構造については，石井寛一郎（1976)，松原治郎（1974)，Starr, Betz, Menne（1972)，Ussher（1974）等によって分析されている。たとえば，石井は学生の精神構造として，1安定型進路選択，2余暇の重視，3日常生活の合理化，4生の感覚への信頼，5小集団への依存をあげている。かつての学生問題研究所の調査によると，在学生の問題とする項目内容は，1就職，2卒業後の進路，3人生の目標意義の順であった（表1)。1976年に東京工業大学学生相談室が実施した調査では，新入学生の関心事を，1学業，2将来の方針，3課外活動，4対人関係，5アルバイト，6異性との関係，7自分の性格心理問題，8人生の問題，9健康の問題，10奨学金の順であげている。また宮川知彰は，学生の不適応に対する大学全体の対応策として石井の対応策を修正し，(1)学生に学業への興味を回復させること（教科選択制，転学部制，単位互換制等をふくむ)，(2)進路相談の拡大，(3)人格的出会いの機会を拡げるグループ活動，(4)一つのセンターとしての学生相談センターの必要性をあげている。

本研究は，大学生の学園生活における満足の構成要素を発見しようとするものである。これにより学園生活における満足度意識の構造を理解しようとする。そしてこれは，学生相談を一つの中心とする学生パーソネル・サービスの基盤に対応するものと思われる。

Robinson は，個人的適応改善のための学習の基礎の一つの条件として，リラックスした motivation をあげている（Robinson 1963)。また，適度にリラックスした状態がコミュニケ

表1　多項目反応一覧表（◎印反応）

順位	項　目	領　域	実数	%
1	就　職	将　来	130	21.7±3.3
2	卒業後の進路	将　来	93	15.5±3.0
3	人生の目標意識	自己，人生	81	13.5±2.8
4	恋　愛	人間関係	66	11.0±2.4
5.5	劣等感	自己，人生	65	10.9±2.4
5.5	将来の見通し	将　来	65	10.9±2.4
7	異性の友人	人間関係	52	8.7±2.3
8	人とのつきあい	人間関係	49	8.2±2.2
9	結　婚	人間関係	46	7.7±2.2
10	政　治	社　会	45	7.5±2.1

学生問題研究所

ーションの基礎であるということは，Semantics の立場からも指摘されている。この状態をもたらす基本的要因を学園生活における満足と考えると，このことは，大学における学習の基礎としてもとらえることができるのである。

2.　学園生活満足度の分析的研究

(1)　調査の対象と方法

調査対象とした学生は，東京都内の私立大学の1，2年生である（表2）。調査実施の時期は，いずれも1976年12月である。

調査方法は文章完成法であって，大学生の学園生活満足度の分析Ⅰ（和田　林　1977）で実施した評定尺度法による調査と同時に実施した（本調査の刺激語は，評定尺度法の意見項目のカテゴリーと対応させた）。

文章完成法の刺激語は，次のとおりである。(1)よその大学と比べて私達の大学は…　(2)先生の授業は…　(3)クラスメート（級友）は…　(4)授業を受けている学生は…　(5)先生は…　(6)キャンパス（構内）は…　(7)この大学は学生に対して…　(8)この大学の将来は…

表2　本研究の調査対象

		対象数	性別
A	College	85	f
B	College	133	f
C	University	60	m
	計	278	

(2)　結果

回収したロー・データを，まず次の方法で3人が評定した。

第1段階は8個の文章を通読して，回答学生の大学への満足度を5段階評定する。ここで満足度といっているものは“学生が主観的に学園および学園生活に対して抱いている価値・期待と，現在の自己を含む環境認知とが

表3　総合満足度評価による大学別の満足度比率

	Total		A College		B College		C Univ.	
	%	N	%	N	%	N	%	N
Satisfactory	16.1	35	20.9	14	9.9	10	28.0	14
Neutral	33.0	72	41.8	28	17.8	18	46.0	23
Dissatisfactory	50.9	111	37.3	25	72.3	73	26.0	13
Total		218		67		101		50

一致している状態”である。第2段階は各刺激語（測定する対象）に対して，完成された文章が好意的な内容であるか，非好意的内容かについて5段階評定した。

第1段階の総合満足度評価の結果を，大学別に表3に示した。3大学の合計では，満足のカテゴリーの比率が16％強であり，不満足のカテゴリーの比率は50％を越える。χ^2検定の結果，$\chi^2_0=36,065$で大学間に1％水準で有意差が認められた。すなわち，大学によって学園生活に満足している学生の割合が相違していることを示している。

表4—1　刺激語(1)に対する意見分析

	Total		A College		B College		C Univ.	
	%	N	%	N	%	N	%	N
Positive	10.1	22	11.9	8	3.0	3	22.0	11
Neutral	11.0	24	9.0	6	3.0	3	30.0	15
Negative	78.9	172	79.1	53	94.0	95	48.0	24
Total		218		67		101		50

表4—2　刺激語(2)に対する意見分析

	Total		A College		B College		C Univ.	
	%	N	%	N	%	N	%	N
Positive	14.2	31	20.9	14	7.9	8	18.0	9
Neutral	28.0	61	35.8	24	22.8	23	28.0	14
Negative	57.8	126	43.3	29	69.3	70	54.0	27
Total		218		67		101		50

表4—3　刺激語(3)に対する意見分析

	Total		A College		B College		C Univ.	
	%	N	%	N	%	N	%	N
Positive	47.7	104	38.8	26	55.4	56	44.0	22
Neutral	25.7	56	26.9	18	17.8	18	40.0	20
Negative	26.6	58	34.3	23	26.7	27	16.0	8
Total		218		67		101		50

表 4—4　刺激語 (4) に対する意見分析

	Total		A College		B College		C Univ.	
	%	N	%	N	%	N	%	N
Positive	11.0	103	38.8	26	55.4	56	44.0	22
Neutral	32.6	56	26.9	18	17.8	18	40.0	20
Negative	56.4	58	34.3	23	26.7	27	16.0	8
Total		218		67		101		50

表 4—5　刺激語 (5) に対する意見分析

	Total		A College		B College		C Univ.	
	%	N	%	N	%	N	%	N
Positive	19.3	42	40.3	27	8.9	9	12.0	6
Neutral	28.4	62	34.3	23	18.8	19	40.0	20
Negative	52.3	114	25.4	17	72.3	73	48.0	24
Total		218		67		101		50

表 4—6　刺激語 (6) に対する意見分析

	Total		A College		B College		C Univ.	
	%	N	%	N	%	N	%	N
Positive	2.8	6	4.5	3	0	0	6.0	3
Neutral	1.8	4	4.5	3	1.0	1	0	0
Negative	95.4	208	91.0	61	99.0	100	94.0	47
Total		218		67		101		50

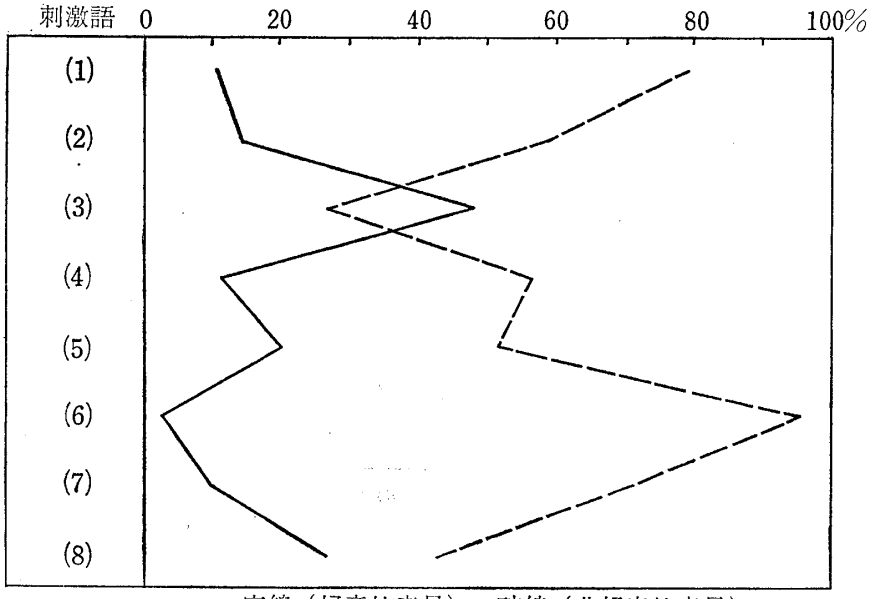
表 4—7　刺激語 (7) に対する意見分析

	Total		A College		B College		C Univ.	
	%	N	%	N	%	N	%	N
Positive	9.2	20	13.4	9	4.0	4	14.0	7
Neutral	21.1	46	26.9	18	6.9	7	42.0	21
Negative	69.7	152	59.7	40	89.1	90	44.0	22
Total		218		67		101		50

表 4—8　刺激語 (8) に対する意見分析

	Total		A College		B College		C Univ.	
	%	N	%	N	%	N	%	N
Positive	26.6	58	23.9	16	24.8	25	34.0	17
Neutral	31.2	68	41.8	28	26.7	27	26.0	13
Negative	42.2	92	34.3	23	48.5	49	40.0	20
Total		218		67		101		50

図1　各刺激語に対応した好意的意見・非好意的意見の比率（3大学合計）



実線（好意的意見）　破線（非好意的意見）

第2段階の結果は表4のとおりである。また3大学を合計した刺激語ごとの好意的意見・非好意的意見の比率を図1に示した。すなわち，好意的意見が多かったのは，クラスメート（刺激語(3)）である。逆に非好意的意見の多かったのは，キャンパス（同(6)），そして他大学と比較した自分の大学（同(1)）などである。大学間で回答傾向に有意差が得られたものは刺激語1，2，3，4，5，6，7であり，それぞれ χ^2_0=43.89，12.75，12.60，13.23，46.01，9.56，37.76 であった。

内容分析のため，3大学からそれぞれ20名をランダム・サンプリングし，まず総合満足度で3カテゴリーに分け，ついで各カテゴリーごとに好意的，中立，非好意的意見の3つに分けて分析した。この結果は表5のとおりである。

大学生の学園生活満足度の分析Ⅰによって明らかにされた大学生の学園生活満足度の構成因子は，1教員との関係，2大学へのプレスティッジ，3仲間関係，4学業への態度，5授業内容，方法，6 友人関係，7 学校事務，8 大学の雰囲気，9 学生生活についての制約，10 学生への評価，11 カリキュラム，12 学園の物理的雰囲気である。

3.　満足度調査の発展

大学生の学園生活における満足を規定する要因は，大きく (1)人間関係（友人，教員関係），(2)学業，(3)大学帰属意識と将来の見通しに集約することができる。

これらは，学生相談を一つの中心とする学生パーソネル・サービスの成立と展開の基盤と

表 5—1　刺激語(1)〔よその大学と比べて私達の大学は……〕の内容分析

		A col.	B col.	C univ.
満足	好意的	静かで落着いている 先生や事務の人との接触が大きい 家庭的であたたかみがある 先生との交流が比較的多い		学生間の連帯が強い
	中立	設備があまりよくない 清掃などもあまりいきとどいていない		
	非好意的			構内が狭い 国立に比べ授業料が高すぎる 学生と教員とのつながりがない 学生数が多い
中立	好意的			明るい 自由 社会的評価は高そうであります 専門分野はかなり充実している
	中立	人数が少ない 規模が小さい（短大はこんなもんだろう）		たいしたことのない学生が多い
	非好意的	規模が小さい④ 人数が少ない 構内が狭い 清潔感がない 設備があまり整っていない 時間的にも余裕がないようだ 学生が幼稚である 無名である 授業内容が単調なようだ	樹木／庭が少ない② 狭い② 名が知れていない	狭い② 学生数が多い／多すぎる② マスプロ教育が多い 先生と学生の交流が少ない 緑が少ない 女子が少ない コンクリートむき出し
不満足	好意的			
	中立			学生数が多い ピンからキリまでいる あまりに専門的 男の子の割合が多すぎる
	非好意的	狭い② 専門科目も少ない 高校の延長のようだ② 施設が不十分② 休講が多かった 規模が小さい クラブ活動が不活発 学生同士の交流が少ない 中身が充実しているとはいえない 勉強が不活発 活気がないようだ	狭い⑥ 子供っぽい考えの人が多い 大学らしくない② 誇りに思えない 高校のようだ 学生数が多い つまらない 規模が小さい 開講科目が少ない 自由に選択できない 学生の勉強態度が熱心でない 人数が多くて授業があまりよくわからない 専門的な勉強の場が少ない	学生数が多い／多すぎる⑤ ロッカーがない キャンパスが分散している 他学部とのつながりがうすい 設備がさほどよくない 授業料が高い

例　②　類似の反応が2回あるもの

表 5—2　刺激語(2)〔先生の授業は……〕の内容分析

		A col.	B col.	C univ.
満足	好意的	わりと学生のことを考えてくれる② 概してわかりやすい 細かく専門的である 専門学科は興味をもって聞くことができる		割合と面白い
	中立			内容が多くむずかしい
	非好意的			わかりにくいことがしばしばある いいかげんなものが多い
中立	好意的	割合におもしろい わかりやすい授業をしてくれる 専門科目の授業は興味深いものが多い	一方的であるが興味，関心を示す講義内容が多い	わりとおもしろい
	中立	おもしろいものもあるし，つまらない／わからないものもある② 楽しい時と，ねむくなる／集中できないものとある②	その先生により内容の深さがちがう 興味のあるものも，持てそうもないものもある	
	非好意的	楽しいと感じる先生と同じことをくり返す感じの先生がいて内容が薄い 単調でつまらないものが多い 一方的な授業内容が多い	時間通りに来ないためにきちんと時間には終了しない 興味をもつようなことを話してくれることが少ない	おもしろいと思われるものは少ない 毎年同様のことをいっておるらしく興味がわかない 一方通行の面が多分にある 進度が早く学生の理解度を無視している 退屈なものが多いが中には内容のあるものもあります
不満足	好意的			
	中立	おもしろい授業もあるけれどもたいくつする先生のもあります	とてもおもしろい先生もいますが教本を読んでいるだけの授業もあります	決して満足できないがこんなものではないか
	非好意的	あまりやる気をおこさせる授業はない② あまり聞いていない 興味のあるものだけ聞く わりあい単調で内容がうすい	あまりおもしろくない／つまらない⑧ あまり頭に入らない 実践ではあまり役に立たない 事務的である 教科書どおりである	興味をそそられるようなものは少ない② 教え方がへたなことがよくある ユーモアがなくつまらない アホな教員が多い 学生の希望や意欲を考えていない 声がききとれないことがある 先生自身の人格があらわれたユニークな授業が少ない

表 5—3　刺激語(3)〔クラスメート（級友）は……〕の内容分析

		A col.	B col.	C univ.
満足	好意的	高校時代と比べよく本を読み社会事情にも明るい 人間的にもすばらしい人が多い 語らいや相談ができる 旅行などもよく出かける		個性がある② おもしろい人物が多い（この大学で学んだことの多くは友人から学んだことが多い）② 一人一人が立派であると思う わりと柔軟な人が多い
	中立	人数が多いためバラバラになりやすい 仲の良い人同士がグループをつくりその中だけの行動が目立つ		
	非好意的	連帯意識が乏しい		
中立	好意的	おもしろい人が多い みんな良い人たちばかりである 自分と同じ意見をもった友人が多い 気のいい仲間 たのしく相談にものってくれる 個性のある人々が多い	たくさんいる 楽しい人が多いようである	人のいい奴が多い お互いに影響し合って楽しいつき合いをしている
	中立	小グループに分かれている 地方の人と近ぺんの人たちとに分かれているようである	自分が欠席しても出席にしてくれることがある	麻雀が好きだ② 課題に追われている反面麻雀にも熱心である 勉強仲間よりも遊び仲間に近い 特にどうということはない
	非好意的	通学生と寮とグループができており1年の時より話すことが少なくなった	あまり話さない	
不満足	好意的	まあみんなうまくいっている	楽しくていい人が多い③ みんなたのしい人ばかりで学校へは友だちと話しに来ているようなものです 仲よく助けあうことができる② 心のあたたかい人が多い 個性の強い人が多くおもしろい 何でもいいあえる友人がいる 良い人にめぐりあったと思っています	
	中立			授業に満足して勉強する者とそうでない者とが分かれている 勉学の協力と麻雀の仲間でもっている
	非好意的	ばらばらという感じがする② 単にひとつの集まりの中でのひとり 時間をつぶすのによい相手である	少ない／多くはできにくい③ うわべだけのつき合い グループに分かれてしまっている	大学の仲間というカテゴリーを出ない② バラバラといってよいのでは 非常識な者が多い 人間的にも信頼でき心から友人としてつき合えるような奴はいない 割合自分本位なところがある 馬鹿な奴が多くてつき合う気もせんわい

表 5—4　刺激語(4)〔授業を受けている学生は……〕の内容分析

		A　col.	B　col.	C　univ.
満足	好意的	わりとまじめに勉強していると思う 人数が少ない 静かに聞いている 授業が受けやすい		授業内容を理解しようと懸命になっている おおかたの人は皆熱心に先生方の授業に聞きいっている
	中立			前の方で熱心にノートをとる者，中間でノートをとっている者，うしろで授業に関心がない者に分けられる②
	非好意的	おしゃべりが多くていつも迷惑している		
中立	好意的	2年になるとみんなまじめに受けている		大変まじめである② 全体的に熱心だがその意欲差がかなり明瞭に感じられる
	中立	それぞれが自分たちの思うように活動している まじめな人もいるが不まじめな人もいる まじめに聞いている人が半分 人によって様々であると思う	まじめとそうでない人がいる③ 必要と思う授業は真剣に聴いているがあとは聴いていない	まじめ組と不まじめ組に分かれている 半数くらいは熱心である 熱心な者も多いが授業に失望している者も多い
	非好意的	無駄話が多くて不真面目 出席さえすればいいという考えの人が多いようだ まじめな人はまれである 興味がない授業には不熱心な人が多い ノートをまじめにとる人が少ない 私語が多い いろいろなことをやっている 大部遅れて入ってくる人がいる	先生の言葉はうわの空何を考えているのだろう 先生の見ているところでぬけ出すことがある	授業に対して積極的な姿勢があまりみられない
不満足	好意的	まじめである まじめな態度の人が多いようだ		専門科目になるとみな熱心に授業を受けている
	中立	まじめな人がいたり不まじめな人がいる②	熱心な人とどうでもよい人と大きく2つに分れている②	その先生によってまとまりがぜんぜんちがう まじめな奴もいるが私語をしている奴もいる
	非好意的	おしゃべりの時間のようである	真面目にきいていない人の方が多い⑤ 話し声が多い④ やる気があるのかないのかわからない 興味がわかない	まじめでない者が多い③ 出欠のみ気にしている 授業を理解しようという意欲のある人は稀である これ又アホの集団である

表 5—5　刺激語(5)〔先生は……〕の内容分析

		A col.	B col.	C univ.
満足	好意的	相談にいけばすぐ相談にのってくれる 気軽に質問しやすい あたたかみがある人が多い 真面目にやっている 親しみ好感がもてとてもよい 人によりさまざま，そんなにひどい先生はいない		良い先生が多い 学識の豊かな人は多いが人間的に面白味のある先生は少ないと思う
	中立			
	非好意的			おもしろい人，独特の持ち味の先生はいない 講義をムリなく計画してくる先生とムリするタイプがあり後者が目立つ
中立	好意的	学生に対して授業以外のことでも応じてくれる 生徒の数が少ないため親しみやすい		教員として燃えてる人が割といる 熱意を示し学生に刺激を与えている
	中立	おもしろい派つまらん派，それぞれ人種の異った人間である もっと親身になって授業をしてほしい人もいる 学生よりも研究のことを重視している 教えられることが多い授業内容とそうでないものとがある 興味ある話，体験談を聞かせてくれる人もあるが授業に関係ある話ししかしてくれない先生もある	生徒に対してさっぱりしているようである 良い先生もそろっているがもっと数多くの先生がいたほうがよい	研究の方はすばらしいであろうが教え方となるとである
	非好意的	義務的に講義だけしている感じ あまり親しみやすくない 自分だけ満足して授業をしていることが多い	事務的な方々が多い 講師の先生がほとんどで本学の先生が少ない 時間通りに来なかったり自然休講間近かにこられるとやる気がしなくなる	どう考えているかわからない もっと接する機会が欲しい 授業がたいぎそうだ 講義に燃えている人も少ないと思う
不満足	好意的	素晴しい，しかしこの人はという人は……	個性的な先生はおもしろい	
	中立	親しみやすい人もいるけれど授業だけやっていればいいという人もいる	好きな人もあるが嫌いな先生もいる	休講の掲示をもっと早く出してほしい
	非好意的	もっと学生の興味ある授業をしてほしい[illegible] 生徒との間にへだたりを持っているような感じがする 自由に一日を過しているように感じる[illegible] 研究心に少し欠けているような気がする	授業に出てくるだけの感じを与える やる気があまりないようです へん屈な教授が多い おもしろ味がない 親しめる先生が少ない 授業がいやそうである 事務的な感じしか受けない 無表情だ あまり研究しているようには思われない 学生のことを考えていない	学生に対してあまり親切でない マンネリ（例外を除く） 研究熱心な方はまずいない 話合いたくなるような人が少ない 年寄りが多くて若くて活気のある先生は少ない 授業時間数が多すぎるようだ もっともっと熱をおびたレクチュアをやってほしい まじめな人が多く，ほとんど画一化された人間というイメージ

表 5—6　刺激語(6)〔キャンパス（構内）は……〕の内容分析

		A col.	B col.	C univ.
満足	好意的	狭いが十分である 緑が多い 環境がよい		
	中立	比較的広いと思うがすべて高校優先という感じ 広いが利用できる施設は少ない		狭くうんざりすることがよくある，しかし大学とは建物やキャンパスそのものではないのだ
	非好意的	少し狭すぎる 施設が少なすぎる 構内の土足厳禁が冬は困る		緑が少ない② ガランとして味気ない
中立	好意的			
	中立	もっと大きい方がよい えのぐでぬるのがよい		
	非好意的	狭いと思う④ 清潔感がない② 冬の色 高校生でみちあふれている	狭い③ 暗いようなところがあるようだ	狭い③ コンクリートである② 緑が少ない 味気ない サツバツとして冷い風が吹き荒れている
不満足	好意的			
	中立			
	非好意的	狭い④ 不潔な感じ② 環境も悪い	狭い⑬ あまりきれいでない 設備が整っていない ととのっていない 学校という感じがしない	狭い／すぎる④ 男の子ばかりでうんざりする 娯楽施設が少ない 緑がない しずんでいる 運動のできる場所があまりない コンクリート・ジャングル

表 5—7　刺激語(7)〔この大学は学生に対して……〕の内容分析

		A　col.	B　col.	C　univ.
満足	好意的	親切だと思う 一人前の大人として扱っている		規則をおしつけたりすることがない 各人が自分でやっていかせるような雰囲気がある
	中立	あまり規制してないと思うが厳しいと思う		ほとんど干渉しない
	非好意的	不親切なところがある		
中立	好意的			
	中立	無関心の面ときびしい面をもっている いろいろ考えてくれているのだろうが私はあまり感じない	きびしい面もあるようだ	
	非好意的	開放的でない あまり大切にしていない 先生との交流が少なすぎる 関心があるようで無関心 あまり考えていない	わりと無関心のようである② あまり親身になってくれないように感じる	事務的だ／すぎる④ たいしたことやっていない
不満足	好意的	親切である 通学距離が遠い		放任的であるがこれはよいことである
	中立	良くいうと自由を与えているのだろう悪くいうとどうでもよいのでしょうか 別に何もない	どうにか卒業できるようにさせてくれる	夏，春，冬休みを多くしてほしい 駐車場を解放すべき
	非好意的	小さいことは高校の教師のようによく注意するようだがいざという大事の時にはまるで生徒を無視するようだ	あまり親切ではない② あまりぜんぜん関心がないようです② あまり積極的ではないと思う 大人としてあつかってくれない 冷めたい感じである 規則をきめすぎる あまり考えていない 授業料ばかり沢山とる あまり期待していないところがみられる 表面的にしか考えていない あまり広い態度ではないと思います 意見や要求をあまり入れてくれない 特に事務室と学生との関係はあまりよいとはいえない	不親切 職員のあたりがよくない 本当に学生の気持を考える人間又は組織をもたない 何もない 非常に冷たく権力的に頭を押えこもうとしている 大量生産をおこなっているだけである

表 5—8　刺激語(8)〔この大学の将来は……〕の内容分析

		A col.	B col.	C univ.
満足	好意的	だんだん大きくなっていくと思う 綜合大学のようにしてほしい		明るい いずれノーベル賞をもらう人のあることを期待している
	中立	少し心配である		経営上の問題がつきまとうにちがいない 世間に名が通っているので赤字財政でもつぶれることはないだろう
	非好意的	不安		
中立	好意的	良くなるものであると信じよう		ますます社会に貢献しよう 見通しが暗そうで実は明るいのではないかという気がする
	中立	もっと人数をふやす 授業を楽しく受けられるようにする 設備の充実をはかる必要がある 今とあまり変らないと思う なんともいえない		進歩も後退もしない
	非好意的	のぞめない	知りません	赤字続きでつぶれそう 昔の校風というものが消えてしまい，特色のある大学とはいえなくなるであろう
不満足	好意的	大きくなってほしいと思う	よくなるであろう 学生と教師しだいで希望ももてるようになるであろう これからますます有名になるのではないか 進歩していくと思う	より有名な私立大学となる 見通しは明るい 徐々によい方向に進むと思う
	中立	わからない③ 今までと変らない② 今後の学校側の態度による 予測できない	もっと十分なカリキュラムを 学生と職員が協力していけるように 見通しはまあまあだと思う もっと厳しいものの中に自由な雰囲気をもつようになってほしい もっと人数を少なくし，内容を充実していかないとだめだと思う	先生の指導方針の改善と調和が問題である 多角経営にのり出す
	非好意的	不安定な状態に置かれているのでしょうか このままの状態が続くでしょう	このままの状態④ 学生と対立するであろう なんとなくあやぶまれる どうでもいい 前途多難	質の低下により先の見通しがたたない 旧態依然だろう 長くて20年短くてあと10年の命脈である 暗い

して考えることができる。学生相談の方法論も，これに対応して構成しうる。各分野は，人格的問題，矯正的技能的問題，開発的技能的問題に分類される。各領域に対応する学生相談の方法論は，表6のとおりである（この方法論の内容は，それぞれの名称を付しておこなわれている機能を示す。従って，すべてが並列的概念ではない）。すなわち，来談学生の主として情緒的問題には passive method が有効であるにしても，カウンセリングの方法論は，来談者の問題に対応して適用されるべきである。

先の図1で示すように，好意的な反応が非好意的反応を上まわっている唯一の項目は，友

表6　満足度に対応する領域に対比した学生相談の方法論

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">主として人格的</th><th colspan="2">主として技能的</th></tr>
<tr><th>矯正</th><th>開発</th></tr>
<tr><td rowspan="2">(1) 人間関係</td><td rowspan="6">Assertiveness Training
Behavior Modification
Communication Skill（社会心理学的，意味論的訓練をふくむ）
Encounter Group
Gestalt Therapy
現存在分析
Group Discussion
Human Potential Development
Human Relations Workshop
自律訓練
実存分析
行動療法/行動カウンセリング
交流分析
来談者中心カウンセリング
臨床的カウンセリング
Role Playing / Psycho Drama
催眠
精神分析
Sensitivity Training
折衷的カウンセリング
テスト</td><td>モデル学習</td><td>Group Discussion</td></tr>
<tr><td colspan="2">Communication Skill
Human Potential Development
意味論的訓練
Leadership Training
テスト</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(2) 学業</td><td>モデル学習
Remedial Teaching</td><td>効果的学習
創造性開発技能（KJ法他）</td></tr>
<tr><td colspan="2">Human Potential Development
行動カウンセリング
目標決定の学習
認知的技術
Role Playing/Psycho Drama
臨床的カウンセリング
折衷的カウンセリング
進路ガイダンス
テスト</td></tr>
<tr><td>(3) 大学帰属意識と将来の見通し</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

人に関するものである。従ってこの機会に満足し得ない者，いわばキャンパスの孤独や不安への接近が，第1の主要な課題と思われる。第2に学業への対応として，remedial teachingが大学教育においても課題となるはずであり，その基本的側面を学生相談センターが分担する必要がある。第3の課題は進路相談である。

拡大する学生相談サービスの動向を背景に，アメリカの若干の大学にはStudent Counseling Centerの名称の変更の動きがみられる。カウンセリング・サービスの名称に対する学生の感覚について，Kohlan は University of Nebraska at Omaha の学生566名について調査した。その結果，伝統的な名称が第1，2位に位置づけられているが，この分野の活動の今後を示唆する名称も続いている。

(1) Student Couns. Center (2) Couns. and Testing Center (3) Couns. and Personal Development Center (4) Student Couns. and Development Center (5) Center for Couns. and Personal Development (6) Center for Developing Human Potential (7) Center for Personal Growth and Development (8) Personal Development Center (9) Human Potential Development Center (10) Psychological Services Center

これらの機能は，基本的には学生の意識構造からフイード・バックされるものにほかならない。

〔引　用〕

学生問題研究所　1960　大学生の不安についての基礎研究　p. 27
石井寛一郎　1976　現代学生の精神構造について　厚生補導126　p. 14～15
Kohlan, R. G. 1973 Student feeling about names for a counseling center. *J. of couns. Psychol. 20. 4.* p. 386～387
宮川知彰　1977　学生の「不適応」について　厚生補導131
Robinson, F. P. 1963 Modern approaches to counseling "diagnosis." *J. of couns. Psychol. 10. 4* p. 133
東京工業大学学生相談室　1977　学生相談室報告書5　p. 29
和田孝彦　林潔　1977　大学生の学園生活満足度の分析(Ⅰ)　日本教育心理学会第19回総会発表論文集　p. 918～919

〔参　考〕

Ginzberg, E. 1958 *Human resources—the wealth of nation.* N. Y.: Simons and Shuster.
林　潔　1976　オーストラリア，ニュージーランド，太平洋地域の大学と学生相談　ブレーン出版
林　潔　1977　青年期の心理と学生相談の展開　ブレーン出版
松原治郎　1974　日本青年の意識構造　弘文堂
文部省　1954　学制八十年史　大蔵省印刷局
文部省大臣官房調査統計課　1976　学校基本調査速報昭和51年
日本学生相談研究会　1977　第15回全国学生相談研修会資料集
日本職業指導協会青少年進路相談所　1967　進路相談一事例と研究5

立教大学学生部・学生相談所 1976 大学環境調査報告書昭和50年度
沢田慶輔 1972 学校教育心理学 東京大学出版会
Starr, A., Betz, E. L., Menne, J. 1972 Difference in college student satisfaction: academic dropouts, non academic dropouts, and non dropouts. *J. of couns.* Psychol. 19, 4.
Ussher, K. E. 1974 First year failure: full-time students 1969～1970. *J. of Australian and New Zealand Student Services Assn. 1.*
レン, G. C. 高藤昇 石井博訳 1977 若者の生きる世界 大学教育社

(本研究には白梅学園短期大学共同研究費の補助を受けた)

Analytic study of students' satisfaction on college life.

Kiyoshi HAYASHI

The author suggests that students' satisfactional factors of their college life are influencing to one of the basic functions of student personnel services and one of the basic factors of learning.

Objects of this study are 278 college and university students (male and female) in Tokyo, and it was done in December 1976.

Method of this study is sentence completion. Stimulus sentences in these sentence completion are:

(1) Having compared with other colleges, our college is ……
(2) Our teachers' lessons are ……
(3) My class mates are ……
(4) Students' attitude to studying is ……
(5) Our teachers are ……
(6) Our campus is ……
(7) Our college has been treated students ……
(8) Our college will be …… in future.

Only item that positive response was higher than negative is the third one.

So the first suggestion to student personnel services is approaching to students who does not feel satisfaction to their friends in college —— loneliness in campus. The second is remedial teaching in student personnel services especially in student need of counseling center to help study difficulties including various ways for example assertiveness training, behavior modification, relaxation, body feeling, acceptance and so on. The third is need of vocational guidance in student personnel services including various ways.

Contents and function of student personnel services must be feedbacked from consciousness or attitude of students. So this study should offer one of suggestion to student counseling or student personnel services. (はやし きよし 心理学)